2026 年 1 月 7 日

エムエム建材株式会社
能登半島地震復興支援実行委員会

第三回能登半島地震復興支援ボランティアを実施

2024 年 1 月の能登半島地震および同年 9 月の豪雨災害により被害に遭われた皆さまに、心よりお見舞い申し上げます。今なお不自由な生活を余儀なくされている方々の一日も早い安全と、被災地域の復興が進むことを、エムエム建材一同、心よりお祈り申し上げます。

エムエム建材（以下 MMK）は、能登半島地震の復興支援を目的に、2025 年 12 月 5 日～7 日の 3 日間、社員ボランティア活動を実施しました。本活動は 2024 年以降、復興フェーズに応じて継続して行っており、今年 7 月には能登町・真脇地区で地域のお祭り運営を支援するなど、コミュニティ再生にも貢献してきました。今回も部門・役職・年齢層を越えた 6 名が参加し、能登町役場で当時の実情や現在も残る課題について現場の声に触れるとともに、松波地区では水路清掃や土嚢設置など生活環境の復旧作業に取り組みました。

また珠洲市・輪島市の被災地を改めて巡り、復旧に向けた取り組みが続いている現地を視察しました。MMK は今後も活動を継続し、地域創生に向けた歩みに、ささやかながら寄り添って行きたいと考えます。

問合せ先：エムエム建材株式会社
広報事務局
GRP_kouhou@mokmbs.com

MM&KENZAI

人が動けば、地域と未来が動き出す

能登半島地震復興支援ボランティア 3回目

発災直後と2年目で変わる支援フェーズ

エムエム建材株式会社（以下、MMK）は、2025年12月5日～7日の3日間、能登半島地震の復興支援を目的としたボランティア活動を実施しました。本活動は、能登半島地震復興支援実行委員会のもと、2024年から継続して行っている取り組みであり、今回も部門や役職、年齢層の垣根を越えた6名の社員が参加しました。

被災地では、震災発災直後と、2年が経過した現在とでは、必要とされる支援のあり方が徐々に変わってきています。 初期は救助や物資支援、避難対応といった緊急的な支援が中心でしたが、現在は生活基盤の整備や住環境の改善、コミュニティの再生など、**人と地域に中長期的に寄り添う支援が求められています。**

復興までの道のりは決して平坦ではありません。解体作業や住まいの整備、地域での合意形成、制度面での調整など、外からは見えにくい工程を一つひとつ丁寧に進めながら、能登地域の皆さんが日々の生活と向き合い、暮らしの再建に向けた歩みを着実に重ねていることを、今回の活動を通して知ることができました。

前日に雪が降ったものの、当日は見事に晴れて捗った作業の様子

3日間の活動内容

day1：能登町役場訪問

能登町役場を訪問し、震災初期課題や当時の対応状況、現場の実情について話を伺いました。

day2：古民家作業

築約70年の古民家での水路整備作業、古くなった雪囲いの撤去などを実施しました。

day3：被災地視察

津波被害の痕跡が残る地域、応急道路、崩落跡などを巡り、復旧対応が進められている現地を視察しました。

活動報告1：「水の確保」から始まった復旧の現場 ― 能登町役場訪問

㈳能登町定住促進協議会・森専務理事のご案内のもと、能登町役場を訪問し、関係者にご挨拶およびお話を伺いました。震災初期の対応の中でも、特に深刻だったのが「水の確保」だったといいます。 飲み水の不足はもちろん、トイレを流す水や食器を洗う水といった生活用水も十分に確保できず、風呂に入ることもできない状況が続きました。水が使えないことは、衛生面や健康面を含め、日常生活のあらゆる場面に影響を及ぼしていたとのことです。2019年4月に完成した鉄筋コンクリート造・地上4階建ての新庁舎は、2024年1月の震災時にも安全が保たれ、多くの地域住民の避難先となったそうです。現在1階の広間には能登高校書道部による応援メッセージが掲示されており、筆致に込められた思いと力強さが心に残りました。震災および水害から約2年が経過していますが、沿岸部では地盤変動を伴う大規模インフラ復旧が続き、山間部では生活道路の確保や担い手不足が課題となるなど、地域ごとに復旧の段階や直面する課題は大きく異なっています。現在も行政と地域が連携し、一体となって再建に取り組んでいる実状を知る、非常に貴重な機会となりました。

（上）右側/能登町定住促進協議会・森専務理事から話を伺う。中央/ＭＭＫ・辻本部長、左/同・大岩部長。

（左）能登高校書道部が制作した大きなメッセージが、庁舎の1階に展示されている。

活動報告2：地域に開かれた拠点づくり ― 松波地区古民家の水路整備と復旧作業

能登町北東部／松波地区にある推定築70年ほどの古民家において、水路の清掃整備をはじめ、床下浸水を防ぐための土嚢の作成・設置、老朽化した雪囲いの撤去などの作業を行いました。（雪囲いとは、積雪や吹雪から建物を守るため、冬季に外壁や開口部を覆う仮設の防護材のことです）前日の降雪により足場が悪く、水路はほぼ土砂と枯葉で埋め尽くされ陽射しも当たらない為、全体的に田んぼの様にぬかるんだ状態から水路を掘り返し、床下防水用の土嚢を作っては設置していく力仕事でした。作業は非常に困難を伴いましたが、最終的に水路に水が流れ始めた瞬間には、参加者と地域のボランティアスタッフの方々と共に大きな達成感を共有しました。

将来的にこの古民家はボランティアや来訪者のための「地域に開かれた宿泊拠点」としての利用を目指しているそうです。

落ち葉が堆積した裏庭や用水路を清掃し、水の流れを確保するためスコップで掘り整えました。水が流れ始めた瞬間には歓声が上がりました。

活動報告3：現地が示す復興の現実―珠洲市・輪島市の被災地視察

森専務理事のご手配により、被災規模の大きい珠洲市・輪島市を車で巡り視察しました。能登町にも爪痕は残るものの、珠洲市では津波被害による更地や傾いた電柱が目立ち、外海側では斜面崩落や隆起地形上の応急道路など、厳しい現状が広がっていました。参加者は皆、「震災はまだ終わっていない」という実感を強く持つ視察となりました。

▼白い岩は地震により隆起した箇所

曽々木海岸付近（外海側）

海岸隆起と土砂崩れが相次ぎ、迂回が多く発生

応急道路の整備が進む

のと里山街道

奥能登につながる重要な路線
片側規制が徐々に解除され
復旧が進む

見附島付近（内海側）

地盤沈下や液状化の影響が大きく、加えて水害による被害も甚大であったとのこと

▲地面からマンホールが突出している

松波地区
（古民家の整備）

今後の取組み：「何ができるか」を問い続けて― 能登半島地震復興支援ボランティア活動

MMKは、2024年当時から能登半島の復興状況に寄り添い、**初動期・再建期・コミュニティ形成期といった各フェーズに応じた支援を継続してまいりました。**能登地域は震災以前より人口減少という課題を抱えていましたが、震災をきっかけにその傾向がより顕在化している状況にあります。住民票は能登に残したまま、実生活の拠点を金沢などへ移すケースもあると伺いました。そのような中、能登町定住促進協議会の活動に見られるように、能登の魅力を発信し地域とのつながりを大切にしながら、将来の関係人口の広がりにつなげていく取り組みが継続的に行われてきました。こうした活動が多くのご縁を生み、着実な成果へと結びついていると感じます。

また、私たちの能登半島地震復興支援ボランティア活動は、支援を提供する側という立場にとどまるものではなく、むしろ活動を通じて、地域の方々の生の声や現場での経験に触れ、多くの「気づき」と「学び」を得るとともに、社員一人ひとりが成長する貴重な機会となりました。人や地域社会のために自分には何ができるのか――その問いを持ち、行動しようとする姿勢がMMK社内に広がりつつあります。こうした意識の積み重ねこそが企業文化を育て、今後の活動を支える原動力になると実感しています。**今後も活動を継続し、地域創生に向けた歩みに、ささやかながら寄り添って行きたいと考えます。**

過去の能登復興ボランティア活動の様子：(a) 1回目 2024年11月輪島市名舟町/土砂の撤去作業、(b) 2回目2025年7月真脇地区/真脇キリコ祭の準備・運行サポート

参加者コメント：現場に立って初めて見えたもの ― ボランティア参加者の声

■Ａ部長（第一営業本部　鉄構建材部）

東北復興に仕事で携わってきましたが、ボランティアは初参加です。

最も被災した珠洲地区を視察する機会を頂き、報道では見えない実態を目の当たりにすることが出来ました。震災から既に2年が経過していますが、現地における復興は現在も進行中であり、未だご苦労されていることが分かりました。「風化」させることなく、また能登に足を運ぶ機会を作りたいと思います。
頑張ろう、能登！

■Ｂ課長（第一営業本部　鉄構部）

初めて参加させていただきました。貴重な機会をいただきありがとうございます。

被災された方と現地で会話させていただき、物事を前向きに考え、復興に向けた様々な取組みや姿勢に感銘致しました。

■Ｃさん（コーポレートスタッフ　人事・総務部）

1回目・2回目のボランティアに両方参加。現在も事務局として運営をサポートしています。

1回目は家財搬出と土砂の掻き出し、2回目は地域に根差したキリコ祭のお手伝いをしました。イメージしていた復興ボランティアとは異なる支援内容も多く、年月の経過とともに必要とされる支援が変化していくことを実感しました。今後も自分にできる支援を継続していきたいです。

■Ｄさん（コーポレートスタッフ　経理部）

実際に被災された方のお話を伺い、被害状況をこの目で見ることで、あの時自分に何ができたのか、これから何ができるかを考えるきっかけとなりました。また、現在も地盤沈下や隆起が進む地域があるとのこと、大変驚きました。そんな中で再スタートを切ろうとしている多くの方がいました。私も負けずに引き続き支援を続けていこうと思います！

委員会の立ち上が当初より、メンバーとしてサポート。現地でのボランティアは今回が初参加となります。